

5. 四天王寺の見どころ（1）中心伽藍

中心伽藍は空襲による焼失後に再建されたもので、1963年（昭和38年）に落成法要が行われています。

鉄筋コンクリート造の建物群ですが、創建当初の配置および建築様式に近づけて建立されています。それぞれの堂宇の本尊も昭和期のもので、古刹の仏像としては真新しい印象を受けます。

1）中門（仁王門）

中門（ちゅうもん）は、中心伽藍の南側にある、金堂への正面口です。

入母屋造ですが、屋根の上部と下部で段差のある鋳屋根となっています。現在の中門は、1963年（昭和38年）落慶で、創建当初の様式を再現したものです。

四天王寺では、中門の他、金堂と講堂も鋳屋根です。



「脇の間」と呼ばれるスペースには、伽藍の守護神である金剛力士像（仁王像）が祀られています。この金剛力士像は、著名な仏師、松久朋琳・宗琳の代表作です。

奈良の東大寺の仁王像に次いで、日本で2番目に大きい仁王尊像です。

なお、中心伽藍の拝観受付は、中門ではなく西重門にあります。

注記

※1. 鋳屋根（しころやね）

屋根の流れを連続した一つの斜面にせず、上方の勾配を強くし、下方の勾配を緩くした形状の屋根のことを言います。

※2. 金剛力士像

通常「仁王」という名で親しまれ、寺院の境内を守る者として、門の左右に阿形（あぎょう）・吽形（うんぎょう）の一对で安置されています。



密迹金剛力士

（みっしゃく・吽像）



那羅延金剛力士

（ならえん・阿像）